

BPT026-P05

会場: コンベンションホール

時間: 5月24日 10:30-13:00

アジアの霊長類マカク類における頭骨顔面部のアロメトリーと種間差異 Allometry and interspecific differences in facial cranium of Asian macaque monkeys

伊藤 毅^{1*}, 西村剛¹, 高井 正成¹

Tsuyoshi Ito^{1*}, Takeshi Nishimura¹, Masanaru Takai¹

¹ 京都大学霊長類研究所

¹ Primate Research Institute, Kyoto Univ.

霊長類マカク属の頭骨化石は、現生種とは異なった形態的特徴をモザイク状に持っていることがあるので、マカクの進化史を理解するのは困難である。本研究は、幾何学的形態測定的手法を用いて、カニクイザルとニホンザルにおける頭骨顔面形態のアロメトリー様態を調べた。顔前部の上下方向への歪みの程度を表す指標において、両種は共通する一つのアロメトリー直線を示した。したがって、この特徴の種間差はサイズ変動によって説明されてしまう。一方、顔の前方向への突き出しの程度を表す指標において、両種は平行する二つの異なるアロメトリー直線を示した。この結果は、たとえ両種が同じサイズだとしても、ニホンザルのほうがカニクイザルよりも顔が前後方向に短いことを意味している。したがって、顔面部の前後方向への突き出しの程度は、サイズ変動が懸念されるカニクイザルグループの化石種においても、系統推定に有用な特徴であると考えられる。他のマカク種にもこのような手法を応用することで、化石種の系統推定における混乱を解消できるのではないかと期待される。

キーワード: カニクイザル, ニホンザル, 幾何学的形態測定, アロメトリー, 頭骨

Keywords: *Macaca fascicularis*, *M. fuscata*, geometric morphometrics, allometric trajectory, crania